

# 中建協会広報

発行所  
一般社団法人秋田中央建設業協会  
発行人

田 中 道

〒010-0951秋田市山王4丁目3番7号  
TEL 018-862-7778  
akenkyo@akenkyo.or.jp

秋田中央建設業協会 検索



## 年頭のご挨拶

一般社団法人

秋田中央建設業協会

会長 加藤 義光

明けましておめでとうございます。

会員の皆さまにおかれましては、ご家族おそろいで新年を迎えられたこととお喜び申し上げます。

また、旧年中は協会の運営にご理解、ご協力を頂戴し、厚く感謝申し上げます。

さて、近年、異常気象により災害が頻発、さらには激甚化しており、各地で甚大な被害が発生しています。また、社会インフラの老朽化に伴い、県民の財産や生命が危険な状況に置かれているのが現状であります。

業界の使命は、地域の生活と経済活動の基盤である社会インフラ施設の整備、維持管理を通じ、地域経済社会の発展に貢献するとともに、災害時における緊急対応、復旧活動や除雪作業等により、地域の安全・安心を確保することにあります。

秋田中央建設業協会としても、発注者と共に県民共通の資産である社会インフラの整備・維持管理に、また、担い手の育成・確保についても全力を挙げて、地域の守り手としてその役割を持続的に果たしてまいりよう努力する所存であります。

また、現下の大きなテーマは働き方改革と生産性の向上であります。

国では、建設業における週休二日制の確保をはじめとした働き方改革を進めるため「建設業働き方改革加速化プログラム」を策定しており、協会としてもその魅力を高め、働きやすい職場づくりを行い、担い手確保の実現に向けた取り組みを行政機関のご理解・ご支援を頂きながら実施してまいります。

また地域の建設業界の経営状況は、まだまだ厳しい状況から抜け出せてはおりません。

発注者の方々におかれましては、私たち建設業が、

地域の「まちづくり」や「防災・減災」に寄与して行けますように、将来を見通せる安定的・持続的な公共事業予算の見通しを示していただくとともに、各種施策を通じて「働き方改革」にご支援賜りますようお願い申し上げます。

本年は、会員相互の交流の場を多く設けるとともに、各委員会活動を積極的に推進して、諸課題の改善・解決に会員企業が対応できるよう協会運営に当たってまいりたいと考えておりますので、会員の皆様の一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様のご発展とご健勝を心からご祈念申し上げます、ご挨拶といたします。



秋田中央地区建設技術推進協議会(産学官)技術研修会





# 新年のご挨拶

秋田地域振興局建設部長  
佐藤 春浩

新年あけましておめでとうございます。

皆様には、日頃から当建設部の事業推進につきまして、格別の御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、九州北部豪雨や台風19号など、全国各地で大規模な自然災害が発生し、防災・減災対策の重要性を再認識したところであります。

振興局建設部では、一昨年の豪雨災害を経験し、生鼻崎トンネルや管内各河川の復旧工事を進めているところでありますが、ハード面のみならず、浸水想定区域図の作成や土砂災害警戒区域の指定を加速するなど、ソフト面においても対策を講じながら、引き続き、県土強靱化に向けた取組を推進してまいります。

街路事業では、都市計画道路千秋広面線「手形陸橋」が昨年11月に開通しましたが、事業中である新屋土崎線の「旭南工区」や川尻広面線の「横町工区」の整備など、今後も都市内交通の渋滞緩和に向けた取組を進めてまいります。

道路事業では、管内における地域の発展や産業の振興を図るため、昨年事業化された「秋田港アクセス道路」や国道285号の「富津内バイパス」、秋田雄和本荘線の「相川工区」等の改築工事を進めるとともに、橋梁補修や舗装補修、法面对策な

どの維持工事についても計画的な事業執行に努めてまいります。

河川砂防事業では、床上浸水対策特別緊急事業「新波川」や災害対策等緊急事業推進費「馬踏川」などの改修工事に加え、河川の伐木や州ざらい等の維持工事や地域住民と協働で実施している「ふれあいの川美化事業」の拡大などに取り組みながら、地域の安全と安心の確保に努めてまいります。

下水道事業では、汚水処理における効率的な運営管理を図るため、秋田市との汚水処理施設の統合に向けた工事を促進し、新年度内の供用に向けた取組を強化するほか、建築事業では、老朽化が進む県営住宅の安全性確保に向けた改修工事を実施し、良好な居住環境の整備を図ってまいります。

また、建設産業における担い手確保・育成対策については、貴協会と合同で実施している現場見学会や出前授業等を継続するとともに、昨年10月に発足した女性部会とのネットワーク強化や建設産業の魅力発信を拡大するなど、担い手不足解消に向けた取り組みを進めてまいります。

結びに、本年が貴協会並びに会員の皆様にとりまして、なお一層の御活躍と御繁栄となりますことを御祈念申し上げまして、年頭の挨拶といたします。



千秋広面線「手形陸橋」開通式



秋田雄和本荘線「相川工区」



# 新年のご挨拶

秋田地域振興局農林部長  
渡部 謙

謹んで新春のお喜びを申し上げます。

協会員の皆様には、日頃から県農林水産業の振興に格別のご理解を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、農林水産業を取り巻く情勢は、米政策の見直し等による産地間競争の激化や、人口減少を背景とした担い手不足に加え、先般、合意された日米貿易協定では、畜産物が一層のグローバル化の波にさらされるなど、厳しさを増しております。

このため、本県の農林水産業が持続的に発展していくため、「競争力の高い経営体の育成」や「複合型生産構造への転換」に向けた取組を一層強化するとともに、ICT等の先端技術を活用したスマート農業など「次世代型農林水産業」の推進を図りながら労働生産性を高めていくこととしています。

当農林部といたしましても、大規模園芸拠点（園芸メガ団地等）の整備による枝豆、ダリア等ブランド品目の生産拡大、新たな品目としてたまねぎの産地化、大規模肉用牛肥育団地の本格稼働に向けた素牛導入などが進んでおります。さらには、需要期出荷率の向上と労働時間の削減を図るためキクのスマート農業の現地実証に取り

組むなど、今後も引き続き、地域の特色を活かした産地づくりにより、複合型生産構造への転換を強力に進めてまいります。

土地改良関係については、農地中間管理機構による農地集積や園芸メガ団地等の産地づくりと一体的となったほ場整備を重点的に推進するとともに、水田の畑地化等を進めて参ります。また、農業用水の安定供給や農村地域の安全・安心を支える防災・減災対策事業等に取り組んでいくとともに、老朽化が進んだ農業水利施設・漁港海岸施設の長寿命化や機能保全対策等を計画的に進めてまいります。

林業関係については、引き続き一昨年の大雨により発生した山地災害の復旧に努めるほか、林業専用道の整備、間伐や皆伐再造林等による森林整備、高性能林業機械の導入の促進などにより、低コストで安定的な原木の生産体制の構築に取り組んでまいります。

最後になりますが、新しい年も引き続き、貴協会の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、なお一層のご活躍とご繁栄を祈念いたしまして、年始の挨拶といたします。



# 新年のご挨拶

秋田労働基準監督署長  
町田 良則

あけましておめでとうございます。

会員の皆様には、日頃より当署の業務運営にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げますとともに、新年が良き年となりますようお祈り申し上げます。

さて、建設業における労働災害は減少傾向にありますが、人手不足を背景として現場の安全衛生管理の難しさが顕著になっています。

この人手不足の解消のため改正された入国管理法によって、最近では、建設業でも外国人労働者が増え、これに比例するように外国人労働者の労災件数が増えています。

外国人労働者を雇用する場合は、外国人であっても賃金、労働時間、安全衛生管理などすべてが日本人労働者と同様に法の適用を受けます。このため外国人労働者に日本語の研修に限らず、労働者として労働安全衛生法などの知識も植え付けねばなりません。外国人を雇用したらそれで終わりではないところが難しいところなのです。

外国人労働者に頼らない事業場とするためには、事業場における「働き方改革」も重要となります。

平成28年に安倍総理が出席した未来投資会議で、「『建設現場の生産性革命』に向け、現場の生産性を2025年までに20%向上させるよう目指す。」とされました

が、その期限まであと5年。

現在、国土交通省が進める、丁張はもちろん測量も必要としないバックホー（ドラグ・ショベル）であるマシンガイダンス・ドラグ・ショベルの活用や、ドローン技術を使った3次元測量などのICT（情報通信技術）の活用は、今や、レンタル業界でもICT重機の貸し出しを始めているほどです。

このような重機は、女性であっても車感覚で操作ができるようになっているため、新たに設立した女性部会の会員がこのような重機を使って現場で活躍する姿はそれほど遠くない将来見ることができるといえるでしょう。また、煩雑だった発注者への届出書類についてもドローン技術を利用して届出書類の簡素化が図られつつあるようです。

人口減少が著しい秋田県では、現場の労働環境の改善を図り、このような新たな技術による取組などによって「働き方改革」をより一層進めることが重要になっています。

建設業の明るい未来につなげるためにも、会員の皆様には、今年も引き続き「働き方改革」の取組にご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、貴会並びに会員の皆様のご繁栄を祈念申し上げます。新年の挨拶といたします。



# 新年のご挨拶

秋田港湾事務所長

古山 司

謹んで新年のお慶びを申し上げます。新年が、会員の皆様にとって、幸多き年になりますよう心より祈念申し上げます。また、皆様におかれましては、日頃より県内の社会資本整備にご尽力いただくとともに県政の推進に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、新たな年を迎え、昨年秋田港を顧みますと、平成から令和への改元のように、新たな港湾計画の幕開けにふさわしい年であったかと思えます。

まず、4月新春の観光シーズンに合わせ外航クルーズ船が続々寄港しましたが、中でも世界で最も有名なクルーズ船「クイーン・エリザベス」が東北で初めて寄港し、その優美な姿が現れた瞬間は皆様の印象に強く残っているのではないのでしょうか。その「女王」は今後も秋田港へ複数回のお立ち寄りが予定されており、更に今年は5千人以上の旅客を乗せた国内寄港最大級の「MSCベリッシマ」の寄港も決定されています。このように世界屈指のクルーズ船が相次いで秋田港を訪れるのも県民の皆様のおもてなしの心と官民一体となった活動の成果と考えております。

そして、もう一つの柱である洋上風力発電につい

ても、港内及び一般海域における事業や計画が順調に進んでおり、一般海域に関しては再エネ海域利用法における有望な区域として全国で4区域選定され、秋田県沖がそのうち2区域を占めております。間近に迫った建設工事の開始及び運転開始に向けて、巨大で重量のある風力発電資機材の輸送、建設を担う基地港としての準備が急がれているところです。

さらに、海に面する交流拠点としての機能が活かされ、全国豊かな海づくり大会・秋田大会が、天皇后両陛下ご臨席のもと、秋田港周辺を会場として開催されました。開会日には外航クルーズ船が寄港し多数の訪日外国人の方々が降り立っていたこともあり、最高のタイミングで秋田県の様々な魅力を国内外に発信できたのではないかと思います。

このように昨年は順風満帆な船出となりましたが、令和2年も県民の皆様の寄せる期待を受け、東北の産業物流、観光交流の拠点として、そして再生可能エネルギー産業の先進地にふさわしい秋田港の港づくりを進めてまいります。

最後になりますが、皆様のご健勝とご繁栄をお祈りしまして、年頭のご挨拶といたします。



「クイーン・エリザベス」寄港の様子



# 新年のご挨拶

船川港湾事務所長  
伊藤 俊美

新年あけましておめでとうございます。

新年を迎え、会員の皆様のご健勝とますますのご繁栄を心よりお祈り申し上げますとともに、日頃から当港港湾行政にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

当事務所は重要港湾の船川港及び避難港である戸賀港における航路や泊地、港湾道路、防波堤等の港湾施設の管理、施設整備を行っております。船川港は、木材や原油等の物流拠点としてだけではなく、マリーナ施設やマリナーパーク、クルーズ船寄港地など、男鹿半島の観光、海洋性レクリエーションの拠点としての役割も期待されております。

地元男鹿市では各種イベント開催に力を入れており、特に、当事務所が管理しております通称「ヨノ字埠頭」において毎年7月に開催される男鹿ナマハゲロックフェスティバルは、当埠頭開催となってから昨年で10回を数えることとなりました。最近では国内有名アーティストが参加するようになったこともあり、令和元年は

金曜日・土曜日・日曜日の初の3日間開催で、入場者も延べ17,000人にのぼっております。

その他、毎年8月には男鹿日本海花火が「金川多目的広場」で開催され、県内外から多くの方が来場されているほか、一昨年7月にオープンした複合観光施設「オガーレ」(道の駅 おが)が男鹿駅周辺の賑わいを創出しており、港湾施設の有効な利活用が図られております。

さて、今年は例年実施しております港湾機能維持のための泊地浚渫や施設修繕等のほか、昨年から着手しております津波漂流物対策工事や本港地区船揚場改良工事を引き続き行うなど、地元男鹿市が船川港とともに、なお一層発展しますよう港湾機能の整備強化に努めて参ります。また、今年3月には津波避難タワーも完成予定となっております。

最後になりますが、新しい年が会員の皆様にとりまして、さらなる飛躍の年となりますようご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。



# 新年のごあいさつ

秋田空港管理事務所長  
門間 兵悦

新年明けましておめでとうございます。

新しい年を迎え、協会会員の皆様には益々御健勝のこととお慶び申し上げます。また、日ごろより当空港の事業推進に御理解と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

当空港は昭和56年6月の開港以来、39年目を迎えました。現在、当空港からの就航先は、東京(羽田)、札幌(新千歳)、名古屋(中部)、大阪(伊丹)への4路線となっており、1日21往復42便の定期便が就航しております。

また、当空港の運用時間は、開港当時の11時間30分から数回にわたり延長され、平成24年3月からは15時間(7時~22時)となり現在に至っております。夜間駐機により東京、大阪での滞在時間が大幅に延び、利便性の向上が図られてきたところです。この結果、定期便の利用者は、平成29年9月には開港以来の累計で4,000万人に達しており、それ以後も年間利用者数が順調に増加しているところです。

当事務所では「安全は全てに優先する」との方針のもと、秋田空港安全管理計画を策定し、制限区域内の事故

をゼロ件に抑えとの安全目標達成のため、日々、空港施設の維持管理に努めております。

空港の基本施設につきましては、平成28年度から進めてきました誘導路改良が令和2年度に全面完成予定であり、引き続き滑走路改良に着手することとしております。併せて、滑走路灯火等の照明施設の改良も進めてまいります。

また、施設運用においては、降雪期の遅延や欠航を減少させるため、平成27年1月から除雪車7台を増強し「雪戦隊なまはげ」と命名、滑走路等の除雪時間を国内最速級の30分に短縮し除雪に当たっております。

今後も航空機の安全性確保に万全を尽くし、秋田空港が空の玄関口として多くのお客様に安心して御利用いただけるよう努めてまいりますので、引き続き協会会員の皆様の御支援・御協力をお願い申し上げます。

結びに、本年が貴協会並びに会員の皆様にとりまして、なお一層の御活躍と御発展の1年となりますことを御祈念いたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

# 謹んで新春のお慶びを申し上げます

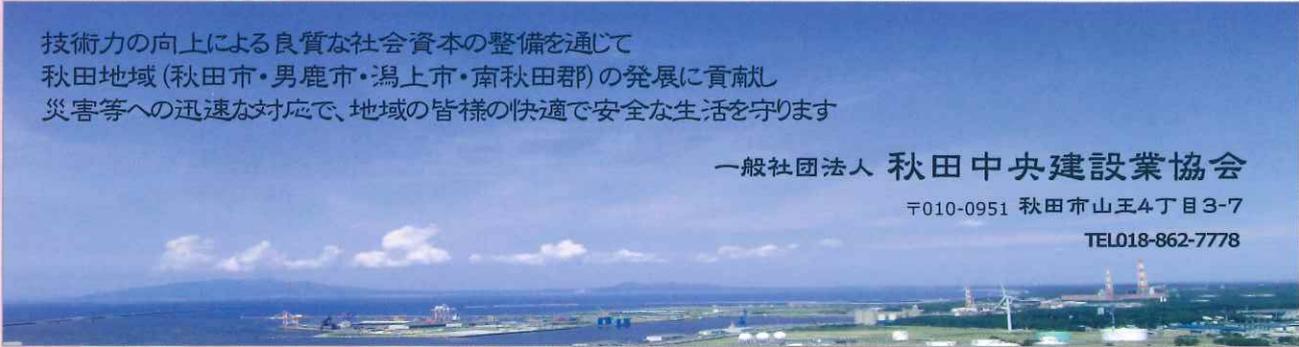
## 令和二年 元旦

技術力の向上による良質な社会資本の整備を通じて  
秋田地域(秋田市・男鹿市・潟上市・南秋田郡)の発展に貢献し  
災害等への迅速な対応で、地域の皆様の快適で安全な生活を守ります

一般社団法人 **秋田中央建設業協会**

〒010-0951 秋田市山王4丁目3-7

TEL018-862-7778



- |            |            |            |            |
|------------|------------|------------|------------|
| 会 長 加藤 義光  | 理 事 平野 久貴  | 理 事 加藤 正己  | 監 事 伊藤 久嗣  |
| 副会長 齊藤 豊隆  | 理 事 菅原 廣悦  | 理 事 石塚 英公  | 監 事 佐々木 茂美 |
| 副会長 長谷川 尚造 | 理 事 渡辺 憲介  | 理 事 伊藤 仁   | 相談役 加藤 憲成  |
| 理 事 武田 鋭彦  | 理 事 伊藤 満   | 理 事 珍田 伸一  | 顧 問 菅原 三朗  |
| 理 事 三浦 稔   | 理 事 佐々木 創太 | 理 事 菅原 孝次郎 |            |
| 理 事 沢木 則明  | 理 事 小南 淳   | 監 事 加藤 政之  |            |



### 理事会・委員会

◎第5回理事会

12月11日(水) 15時30分から「秋田ビューホテル」において開催。

議 題

1. 相談役の委嘱について
2. 秋田県議会中央地区選出議員への要望について
3. 協会行事予定について

以上について慎重審議した結果、いずれも原案どおり承認されました。

(加藤会長、齊藤・長谷川副会長、三浦・沢木・平野・菅原(廣)・渡辺・伊藤(満)・佐々木(創)・加藤(正)・石塚・伊藤(仁)・珍田・菅原(孝)理事、加藤(政)・伊藤(久)監事)